

1-2 作成資料一覧

作成形態	題	作成	年代	製作	コメント	オリジナル形態
1 NTSC形式ビデオ 字幕・英訳版	生活と水	企画・製作： 岩波映像製作所 後援：厚生省	昭和27年	岩波映画製作所	伝染病を防ぎ、生活の不便を減小さささせた水（水道）に焦点をあてた話で日本海に臨む小さな村を事例としている。	日本語ビデオ NTSC形式
2 PAL形式ビデオ 字幕・英訳版				同上		
3 ラオ語 ナレーション テープ				同上		
4 NTSC形式ビデオ ナレーション・英訳版	若者の手で育ち行く 部落	原作： みずのかおる	昭和32年	製作：野村農業 改良普及所	愛媛県岡成部落の若者選による文化振興会活動の記録。	スライド及び日本語 スクリプト
5 PAL形式ビデオ ナレーション・英訳版				同上		
6 日本語 パワーポイント	「生活改善運動」 発表資料	「農村生活改善協 力のあり方研究」 検討会	平成13年	「農村生活改善協 力のあり方研究」 検討会	「生活改善運動」について発表 するときにテーマによって加 工して使える。定型版。	2001年度作成日本語 パワーポイント
7 英語 パワーポイント				同上		
8 スペイン語 パワーポイント				同上		
9 マレイ語版 A4紙	「ジャムについて」	山口農業改良普及 所	1988年5月	山口農業改良 普及所	イチゴ、りんご、ブドウジャ ムの作り方を絵入りで説明。 「煮詰めを終了確認方法」な どの解説もある。	日本語A4紙
10 マレイ語版	「男女の自立度…あな たは何点」	山口県農林部 経営普及課	?	山口県農林部 経営普及課	家庭内の男女分業体制やジェ ンダー差に関する意識を高め るためのアンケート。	日本語A4紙
11 PAL形式ビデオ ナレーション・英訳版	"Rural Women's Entrepreneurship in Japan"	農林水産省	?	農林水産省	広島県などにおける女性の起 業活動の状況（女性グループ が、地域で取れる農産物を 使った郷土料理を創作し、加 工所・レストラン経営などを するまで等）を説明。	日本語ビデオ NTSC形式
12 PAL形式ビデオ ナレーション・英訳版	"Promoting the Family Management Agreement in Japan"	農林水産省	?	農林水産省	家族経営協定の紹介。	日本語ビデオ NTSC形式

## 2. 日本の栄養改善指導における栄養指導車の役割

平成13年度に作成した「農村生活改善協力のあり方に関する研究」検討会報告書（第2分冊）調査報告書編にて財団法人日本食生活協会（以下「食生活協会」とする）の担ってきた活動と併せ、標記栄養指導車（通称キッチンカー）の役割について報告した。しかしながら、同報告においてキッチンカーの役割についての記述は的確性を欠き、誤解を招く恐れがあった。ここに改めて「栄養指導車」が果たした役割について報告することとした。

本文の作成にあたってご指導、ご協力を賜った食生活協会に対し、この場をお借りして感謝の意を表するものである。

### 2. 1 栄養指導車の背景

栄養指導車は、日本の栄養改善指導の歴史に非常に大きな功績を残したものとする。

栄養改善は人々の食生活を健全な方向へ変容させ、よい食習慣、食文化を確立させていく、極めて難しい仕事である。昭和30年代当時は日本人の栄養状態は所要量に対してエネルギーは86%、タンパク質は90%程度で、栄養のバランスも悪く、その対策と併せて脳卒中、結核等感染症対策が緊急かつ重要な課題とされていた。

食生活は文化として人々に定着し、習慣となっているもので、それを変えるには、ただ話しを聞く、印刷物を配布する、食材を与えるだけでは効果が期待できない。実際に話を聞き、料理の作り方を見て、試食を通して味わい、納得して、初めて家庭に採り入れられるものである。

その上、当時は農村や山間地帯はもとより、都市部でも調理のできる施設が少なかったため、家庭の入口近くにまで台所を持って行って、栄養についての啓発を行う方法を考案した。それが栄養指導車である。タンパク質と良質の脂肪を安価に摂取して栄養のバランスのとれた食生活の普及をすることを中心課題とし、具体的にはコムギ、ダイズを使った料理を一品加えての実演、普及であった。

食生活協会の栄養指導車12台は2ヵ月を基準に各県に貸与、巡回して栄養指導をしていたが、地域住民より県独自の指導車で年間を通して巡回指導が受けられるようにして欲しいとの強い要望が上がり、国側より建造費の補助が出るようになった。その時点で食生活協会の栄養指導車による全国巡回指導活動は終了した。その後は県の持つ栄養指導車も110台位になり、栄養改善活動も一層の効果をあげることができた。

地域に学習できる施設が増えたこともあって、10年位前からこの栄養改善指導車による巡回活動は目的を達成したとして、終了に到っている。

## 2. 2 栄養指導車の仕様

食生活協会に所属した栄養指導車の仕様概要は以下の通りであった。

- 1) シャーシ：日産バスシャーシ、E-591（改造）ガソリン車
- 2) ボディー：セミキャブオーバー型
- 3) 定員：7名
- 4) 寸法：全長 6850mm、車高 2700mm、全幅 2310mm、室高 1720mm
- 5) 装備：
  - (1) 2連式プロパンガスレンジ、ガスボンベ 10k-1 個、1.5k-1 個
  - (2) ステンレス製調理台、デコラ張り準備台
  - (3) ステンレス製流し
  - (4) 材料戸棚
  - (5) ホーロー引き冷蔵庫、氷 7.5kg
  - (6) 食器、調理器具戸棚
  - (7) ステンレス製 120 ℓ 入り水タンク、電動ポンプ付き
  - (8) 栄養指導車に必要な調理器具 108 点
  - (9) 印刷物、書類戸棚
  - (10) 拡声装置、テープレコーダー、レコードプレーヤー、ラジオ
  - (11) 暖房機、室内 2 個
  - (12) その他、時計、靴箱、蛍光灯 4 個



図1 栄養指導車の概観

出典：栄養指導車のあゆみ／財団法人日本食生活協会



図2 栄養指導車の後部

出典：栄養指導車のあゆみ／財団法人日本食生活協会

## 2. 3 栄養指導車の活動実績

栄養指導車は4年間(昭和31年～35年)で2万会場、187万人の熱心な耳目と舌を集め、日本の食生活改善事業史に大きな足跡を残した。栄養指導車が与えた主な効果は以下の通りである。

### 1) 保健所活動のクローズアップ

キッチンカーによる食生活指導という新しい企画に対し、保健所全体が全機能をあげて取り組み、また、新聞、ラジオ等マスコミもこれを大きく報道するなどして、今まで黒子(縁の下の力持ち)に徹してきた保健所の活動が地域社会全般にクローズアップされた。

### 2) 機動性による指導対象の拡大

講習、集会の機会に恵まれない農山村漁村地帯においては文字通り「走る栄養教室」として歓迎され、栄養ならびに調理方法はもちろん、調理器具についても受講者の関心を高めた。

### 3) グループ活動への発展

栄養指導車の巡回が一つの契機となって食生活改善の意欲が高まり、実践地区等の結成が促進された。

### 4) 協力体制の確立

関係機関、団体との協力体制の確立、市町村、公民館、農業改良普及所、各種報道機関および婦人会等と連携して広範な活動が展開され、その協力体制が確立された。

#### 5) 指導事項の具体的効果

粉食の必要性の理解度が高まり、また、調理実演に使用した食品の消費量が伸びた。特に地区の農業協同組合の購買部や食料品店の仕入れ内容が変わったり、また、学校給食の完全実施への気運等によい影響を及ぼした。

#### 6) 新車建造

グループ活動が活発化するとともに、キッチンカーに対する期待が益々増大し、各府県自前で新車が建造された。昭和 36 年度には 20 台分の国庫補助金が承認され、合計 50 台のキッチンカーが活躍することとなった。

昭和 30 年代に活躍した栄養指導車の果たした役割は大きく、この栄養指導車の誕生から成長までを支えた食生活協会ならびに各地で活躍した栄養士達の努力は、今後の開発途上国における栄養改善分野の協力を十分貢献し得るものとする。

「参考文献：栄養指導車のあゆみ、財団法人日本食生活協会」